

令和6年度 学校自己評価書（川南町立多賀小学校）

項目	評価指標 及び 具体的目标	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ○ 家庭学習提出率95% ○ 望ましい家庭学習の具体的姿の提示 ○ 保護者相談、個人面談の充実	○ 「家庭学習の手引き」等をもとにした通信や懇親会等での啓発(学期1回以上) ○ 就学前教育との連携(2回以上の交流) ○ 倾聴を基にした保護者の願いの把握	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に積極的に取り組み、学力の定着につながっている。保護者と家庭学習についての連携を図っているが家庭環境等により協力が難しい家庭もある。週明けの提出率が低かったり、提出物が期限を過ぎてしまうこともあった。 ・今後デジタル課題にも積極的に取り組ませたい。 ・1・2年生や3・4年生と十文字保育園との交流を実施した ・4月や夏季休業中に個人面談を実施し、家庭との連携を図った。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。 ○ 各行事等の参加率90%以上 ○ PTA執行部等との綿密な連携 ○ コミュニティ・スクール共同事業の推進	○ 魅力ある行事の企画及びそれらを核とした家庭・地域等との協力体制の推進 ○ PTAとともに企画・運営する行事の実施(学期1回以上) ○ 地域と連携した地域行事等への参加の推進	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ・プールでサッカーなどの新たなリクレーション企画等もあり、PTA、地域、学校と連携しながら魅力ある活動の推進ができている。親子のふれあいをするよい機会となった。次年度も継続できるとよい。 ・多くの保護者が行事や懇親に来てくれ非常に協力的である。 ・一部の学年の保護者より学級通信を定期的に配付してほしいと要望あり。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ○ 全児童の目標設定と、その到達 ○ 読書好きの子どもを育む活動の推進(R5貸し出し冊数:16456冊 R6目標貸し出し冊数:1,5000冊)	○ 年間6回の読書啓発イベントの企画・運営 ○ 図書主任、学校図書館業務担当者、図書委員会の連携 ○ ボランティアによる読み聞かせの実施	3.1		<ul style="list-style-type: none"> ・図書書・図書担当の先生方の取り組みや担任が積極的に図書館利用を進めているおかげで、本に親しみ児童が多くなった。 ・委員会を中心にイベントや読み聞かせなど読書活動の推進により、児童の読書意欲が高まっている。 ・12月に地域協力者による読み聞かせ実施。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ○ 授業力向上につながる授業研究の充実 ○ 単元テスト平均得点率85%以上 ○ 新聞記事を活用した読解力育成	○ 学力向上を目指した授業改善の在り方を主題研究として取り組む ○ 個人に応じた指導のためのチーム作り ○ 新聞記事等活用による読解力育成	3.1		<ul style="list-style-type: none"> ・単元テストで高得点を取ろうと努力する児童が多く見られた。 ・職員減による少人数指導や個別指導の実施が困難になっている ・新聞記事の活用はまだ十分ではない。宿題に活用するなど積極的な活用を今後検討したい。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ○ ふるさと学習の充実 ○ 「いのちを大切にする授業」の企画 ○ いじめの早期発見・早期対応 ○ SCの活用と教育相談の充実	○ 地域素材・地域人材の活用 ○ 「いのちを大切にする授業」の参観日での実施(7月) ○ 全職員で全児童の育成に取り組む指導の充実 ○ 月一度のいじめアンケートや毎学期一度の教育相談の実施と児童支援	3.6		<ul style="list-style-type: none"> ・全児童対象の教育相談の実施により、子ども達の不安や悩みを、小さなうちから解決につなげる機会となった。普段から児童と教員のはなしやすい環境作りができたこともよかったです。 ・「いのちを大切にする授業」や「非行防止教室」を全学年で実施できた。 ・毎月のあのねアンケートでいじめの未然防止や生徒指導対策会での共通理解を図れた。 ・保護者より担任の言動や職員のあいさつについての意見があった。職員自らも人権意識を高く持ち、ふるまいにも改めて気を配るようにしたい。
4	特別支援教育を推進する。 ○ 個別の支援について共通理解・共通実践 ○ 特別支援コーディネーターを中心とした支援体制の構築	○ 月1回の生徒指導対策会、年5回の校内支援委員会での情報共有と共通実践事項の確認 ○ 関係機関との連携と情報共有	3.3		<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援委員会では、支援学級だけではなく、通常学級の支援を要する児童についての共通理解を図ることができ、コーディネーターを中心研修や実践を行い必要な支援体制を全職員で作ることができた。 ・エリアコーディネーターや通級指導教室担当者との連携を図ることで、支援を要する児童への適切な支援をすることができる。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ○ 地域行事と学校教育の関連した計画 ○ キャリア教育と関連付けた計画	○ 郷土への思いを高めるためのキャリア教育との連携(人財活用) ○ 地域人材の活用年間30回以上 ○ 実施内容の学校HP等での紹介	3.3		<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部の支援の下、外部の関係機関との連携や地域人財の活用を行っている。 ・キャリア教育という視点から考えると他校より学ぶ機会が少ないと思われる。保護者を講師として職業について講話ををしていただくなど、さらなる工夫をしていく必要がある。
6	キャリア教育を推進する。 ○ キャリアパスポートを生かした教育の推進 ○ 「キャリアパスポート」による地域の行事等との関連付け	○ 小中高を見通した「キャリアパスポート」の100%活用 ○ 年間指導計画へのキャリア教育関連の挿入と見直し	3.2		<ul style="list-style-type: none"> ・中学校以降を見通したキャリアパスポートの取組を意識することができた。キャリアパスポートを書く際に自分の望ましい姿をくわどの工夫を行えた。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ○ 学校教育及び家庭学習におけるICT活用の推進 ○ 国際理解教育及び外国語教育の充実	○ 授業でのICT機器の活用 ○ タブレット持ち帰りによる家庭学習での活用(3年生以上) ○ ALT、国際交流員等の積極的活用	3.3		<ul style="list-style-type: none"> ・授業でもICTの積極的な活用や課題にデジタルドリルを有効に活用することで、児童の学力向上につなげることができた。 ・ICT支援員を活用した研修会を行うなどして、もっと教員が一人一台端末のタブレットを効果的に使った学習指導ができるようにしたい。
III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ○ 教職員の意識改革の推進 ○ 内容に応じた校務分掌の工夫(全体・小集団・個人) ○ 校内外の研修への主体的参加	○ 日常的に相談しやすい体制づくり ○ 職員会における一人一発言 ○ 行事内容及び役割分担の見直し ○ 新教育研修制度の周知による主体的参加と積極的支援	3.4	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ・校務文章のスリム化により、働きやすい環境につながっている。 ・OJT研修が計画的に行われるようになったので、今後も無理のない程度で先生方が互いに学び合える場を設定したい。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ○ 緊急時・不急時における危機管理の徹底と常時危機意識の高揚 ○ 児童の危機意識を高める指導	○ 月1回の安全点検時におけるマニュアルを生かした環境整備 ○ 安全点検や通学路点検、登下校時の指導の実施 ○ 避難訓練時のTO-D0リストとの活用及び危機管理マニュアルの活用	3.3		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検から修繕依頼までスムーズに行うことができた。児童による安全点検も実施し児童の安全意識の向上も図ることができた。 ・予告なしの避難訓練も実施できた。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ○ データを生かした指導の充実 ○ 個の力を伸ばす授業及び日常指導 ○ 体を動かすことが好きになる教育の推進 ○ 健康増進意識の高揚	○ 体力テストの結果の分析考察 ○ スクールスポーツプラン活用の授業構成(導入の工夫) ○ 委員会活動提案の運動遊びの実施 ○ 基本的な生活習慣の定着及びう歯治療等の治療率の向上(R5:71%→R6:80%)	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果より児童の体力の低下が著しい。今後もスクールスポーツプランを意識した体育学習の推進を図りたい。 ・体育の時間に体力づくりに取り組んだり、昼休みの外遊びの激励などにより、運動は楽しいと感じている児童が多い。 ・歯科治療率については、現段階(11月)で71%と目標を達成していない。今後も、お知らせ等で治療を促す必要がある。